

牛車とは、宿老の大臣など、陣の内へ牛の車をかけて、中のへを出入する也、

〔輿車圖考〕牛車は、日本後紀に、はじめに見ゆ、その起本、未詳かならず、○中その製造は、式に見え

たり、○中ならの朝のほどは、人々これにのることを好まざりしとみえて、令格などにも所見な

く、すべていかなる品の人より乗るといふ制度も定まらず、式にも宮城門を出入する制はのせ

たれども、京内のことは、何ともみえず、○中市人の乗車の事、彈正式に見えたれば、制にあらざる

ことをまゐるべし、○中さるほどに、まかるべからざる人も、みだりに乗車して、みだりがはしかり

しかば、寛平○宇の御時、はじめてその制を立てらる、○中その制も、ほどなくゆるべり、○中その

のちも弛張時々、に變じ、沿革も亦おなじからず、○中女は上東門より内も乗る事なれど、男はた

だ京内にかざりて、宮城門よりうちのはのらす、其中によせ重き親王、大臣、勅許ありて宮門の内ま

でのる事あり、

〔新儀式五臨時〕皇后移徙事

當日駕輿、出自玄暉朔平門、或出自便門、或用牛車、貞觀三年、皇太后(清和)母后(明子)臨御、太政

〔撮壤集中唐庫カラス〕

〔飾抄下〕一車

唐車

太上天皇、攝政關白、無上之人、乘之、○中

八十島典侍

保元二十二十六、八十島典侍、侍子紀、勅使唐車、殿下(藤原)

大嘗會御禊

永治元十、御禊、乘唐車供奉、

唐底車